

「上山城」からのたより 春・第85便

曾我部家の家宝

山市には武家屋敷が四軒残っており、いずれも上山市指定文化財に指定されている。そのうちの軒が旧曾我部家で、現在は一部改修を経て様々な事業が開催できる場所として活用されている。建物自体の建築年代は特定できていないが、二百年以上前に建てられたもの

と推定され、十年ほど前まで住宅として実際に使用されていたものである。

曾我部家の由緒書によれば、上山藩に召抱えられたのが宝永五年（一七〇八）、藤井



曾我部家の家宝

松平氏七代信通の家臣となったのが上山藩曾我部家の始まりとされる。初代宗八は家禄五十石、宗旨奉行や馬廻役を勤め、のちに百石を給され、二代勇八は七十石で徒頭、三代右介は大目付となり八十五石と代々藩の要職に就いた家である。藩政時代、曾我部家の敷地は六百坪あり、そのほかに山や城内に畑があったとい、かなりの土地を所有していたようである。

写真の甲冑と刀剣は、ご当主であった故曾我部千治氏の著『百翁回顧録』の中で家宝として紹介されている資料である。甲冑は「赤色漆塗二枚胴具足」、刀剣は「刀 銘 伯耆守藤原信高」である。甲冑は桃山時代の作とされ、鎧櫃には曾我部家の家紋である三つ笠紋が記されている。威糸は紺または藍色で、胴、袖、草摺、兜などには赤漆が塗られている。刀剣は、日本美術刀剣保存協会より「特別貴重刀剣」の認定書が附けられており、建物同様、上山市指定文化財となっている。このほかにも槍などの武具が残されており、千治氏が大切に保存してこられたことがよくわかる。

上山藩士が所有していた武具類として由緒がはつきりしているものが少ないなかで、これらの甲冑や刀剣類は上山にとって大変貴重な資料となっている。

(公財)上山城郷土資料館 学芸員 大場 浩子

【常設展示室から】2階松平コーナーに曾我部家の甲冑と刀剣を展示しています。